



奈川の人口	
令和4年1月1日現在	
総世帯数	307世帯
総人口	620人
男	294人
女	326人

発行 奈川公民館  
 発行者 忠地 愛男  
 編集者 公民館報編集委員会  
 印刷 (株)プラルト

# 祝 成人式

令和4年1月9日  
 奈川地区対象者12名



後列左から 向井 智<sup>さとし</sup>さん、大橋 菜宙<sup>まひろ</sup>さん、池田 聡太<sup>そうた</sup>さん、古畑 日向<sup>ひなた</sup>さん、志水 尊<sup>たける</sup>さん  
 前列左から 菅原 愛星<sup>まなせ</sup>さん、忠地 夏桜<sup>なお</sup>さん、奥原 朋香<sup>ののか</sup>さん、小林 ゆり<sup>りさ</sup>さん、勝山 星奈<sup>せいな</sup>さん、丸山 野乃花<sup>ののか</sup>さん、高宮 李咲<sup>りさ</sup>さん

## 新成人の皆さんに抱負を伺いました

◆池田 聡太◆  
 成人としての自覚を持ち、尊敬される人になる。

◆大橋 菜宙◆  
 悔いのない人生を送るべく、何事にもチャレンジしていく！

◆奥原 朋香◆  
 責任のある判断や、行動のできる大人になりたいです。

◆勝山 星奈◆  
 福祉関係の仕事をして、人との関わりを大切にしたい。

◆小林 ゆり◆  
 今まで育てていただいた両親や地域の皆様へ感謝し、責任を持って行動していきたい。

◆志水 尊◆  
 これからは成人として自覚を持ち、落ち着いた行動を心掛けたいです。

◆菅原 愛星◆  
 ここまで育ててくれた両親に感謝し、両親に恥じない成人になれるよう日頃から努力を惜しまず過ごしていきたい。

◆高宮 李咲◆  
 臆病な自分に負けず、考える前に行動してみる。挑戦の多い年にしたい。

◆忠地 夏桜◆  
 自分のやりたいことに向けて、努力し続けられるよう頑張ります。

◆古畑 日向◆  
 四月から社会人(予定)です。頑張ります！

◆丸山 野乃花◆  
 時間と好きな人たちと、継続する力を大切にします。

◆向井 智◆  
 「これの為なら何があろうと頑張れる」と言えるような夢を見つけます。

### 『野麦街道の歴史』 を振り返る

十月二十二日、文化センター夢の森において、「野麦街道の歴史と石造物」と題して、前公民館長の勝山裕康さんから講演していただきました。

平成二十五年度から三年間、地区内の石造物や歴史について調査研究した成果を元に、石造物と街道の関係や野麦街道と尾州岡船の歴史、製糸産業と工女たちの野麦街道の往来の歴史などを振り返りました。



講演を聴いて  
奈川小中学校事務職員 井上聡夫

勝山さんから奈川の歴史について、やさしく教えていただきました。奈川にある石造物をくまなく踏査された話からは大事なことを教えてもらいました。それは、ひとつひとつの石造物に、先人の思いが込められているということです。先人の思いに寄り添う大切な視点に気づかせていた

### 町内公民館だより

黒川渡湯の原町内公民館長 竹田原裕一

黒川渡・湯の原町内公民館では、一月のどんど焼きに始まり、たくさんの行事を計画、実施しています。ここ二年はほとんどできていませんが、松切りなど屋外のものには皆で協力して行っています。

他の町内公民館同様、住民の減少が大きな問題ではあります。昔から受け継がれた行事は、これからも大切に次世代へと伝えていくことが重要かと思えます。

微力ながら、地域のために  
よう務めて  
まいります。



できました。

尾州岡船や野麦峠のお話からは、時代ごとの奈川の様子に思いを馳せることができました。各時代の人たちは、今日までその時代に合った奈川の持ち味を発揮してきたのです。

これからの未来につながる素敵な講演を聴かせていただき、ありがとうございます。

### 諏訪市湖畔公園 ウォーキング

十一月十二日、奈川福祉ひろばと奈川公民館の共催で、諏訪湖畔ウォーキングを開催しました。

奈川を出発するときには雨が降っていて心配しましたが、波田あたりから晴れ間が見え、一同ほっとしました。

諏訪湖畔を歩いて、足湯に浸かったり、間欠泉を見学したりしました。足湯はとても温かでも心も癒されました。出掛ける機会が少ない今、久しぶりに楽しい時間を過ごすことができました。



## ハロウィンイベント



十月二十日、文化センター夢の森にて、奈川小放課後子ども教室によるハロウィンイベントが行われました。

開始前に宿題を済ませようと、普段以上に静かに集中して取り組んでい



### 野麦路



コロナ感染に悩まされた二年余でした。ようやく収まりつつあるのかと思っていたら新種のオミクロン株の発生。「美味しいものを食べに行きたい」「飲みに行きたい」「みんなで旅行に行きたい」などと気楽に言えるのは、大勢の方々が亡くなっている中で、自分の身辺はさほど心配する

ことなく過ごしてきたからだと思います。

まだ色々計画することは不安で、なかなか実行には移せませんが、普段の生活の中でマスクの着用や手洗い、消毒等が当たり前になってきて

いて、生活の一部になりつつあるので、さまざまな工夫をしながら、今年こそは希望の持てる一年になりますようにと、願ってやみません。

(志水 陽子)